

日本海水学会若手会第9回学生研究発表会を終えて

朝本 紘充*

平成30年3月8日(木)から10(土)までの3日間、東京都墨田区にある「たばこと塩の博物館」をメイン会場に日本海水学会若手会主催の「第9回学生研究発表会」が開催されました。今回の発表会は同博物館の全面協力のもとで開催され、会期中には全国から90名を超える方々にご参加いただきました。

第1日目は雨の降りしきるなか、羽田空港周辺施設からのスタートとなりました。東京都大田区にある日本航空(JAL)のメンテナンスセンターにおいて整備工場の見学会が開かれました(写真1)。初めに1時間程度の講習を受けた後、多数の飛行機が整備されている格納庫へと向かいました。参加者一同、間近で見るジャンボジェットの迫力に圧倒されておりました。

続いて2日目より、博物館において参加学生による研究発表が行われました。今回は23件の口頭発表と35件のポスター発表が披露され、活発な議論が行われました(写真2)。発表件数の増加や学生向けの新規イベント「企業研究会」を企画した関係もあり、口頭の発表時間は6分、質疑応答は2分といたしました。比較的短めの時間設定ではあったものの、周到に準備されたプレゼンテーションが多く、ほぼ予定通りの時間で進行することができました。14時過ぎからは博物館1階のワークショップルームにてポスター発表が行われました。上記のとおり件数が多いことから前半と後半の2部制に分けて行いました。会場は発表者と質問者の熱気に包まれていました。

ポスター発表終了後の16時頃より、上述の新企画「企業研究会」を開催しました。本会は日本海水学会若手会幹事が中心となって企業、学生および研究者らとの深い交流を促すためのイベントとして企画・立案したものです。企業・業界研究はこれから就職活動を行う学生はもちろん、既に進路が決定している学生にとっても将来に役立つ情報を得ることができる貴重な機会



写真1 JAL工場見学会の様子



写真2 口頭発表の様子(視聴覚ホール)

となり得ます。また、大学等に在籍する研究者にとっては社会的ニーズの把握や共同研究テーマの創出に繋がる可能性があります。さらに企業関係者には大学・研究機関の「知」を活用するためのきっかけづくりにしてもらいたいと考えました。初めての開催となった今回は製塩企業並びに日本液体清澄化技術工業会(LFPI)の所属企業を中心に、大塚実業(株)、栗田工業(株)、(株)トーケミ、リファインホールディング

* 日本大学生産工学部 教養・基礎科学系 (〒275-8576 千葉県習志野市新栄2-11-1)
TEL: 047-474-2860, E-mail: asamoto.hiromichi@nihon-u.ac.jp

ス(株)、伸栄化学産業(株)、(株)ニシヤマ、野村マイクロ・サイエンス(株)、鳴門塩業(株)、ナйкаイ塩業(株)および(公財)塩事業センター 海水総合研究所の計11団体の皆様にご参加いただきました。本会の具体的な流れとしては、事業内容を中心に初めに1団体あたり5分間程度のフラッシュプレゼンテーションを行ってもらい、その後ポスターセッションの形式で聴講者との交流をしてもらいました(写真3)。初の試みであるにも関わらず、本会は大変な盛り上がりを見せておりました。尚、本会の詳細については6月に千葉大学西千葉キャンパスで行われた日本海水学会第69年会の技術交流ポスターセッションにおいて「【若手会】企業研究会の紹介(ポスター番号:CP-05)」と題して、海水総合研究所の峯尾隼人様を中心に報告させていただきました。次年度の第10回学生研究発表会(実行委員長:工藤翔慈先生(群馬工業高専))においても開催する予定です。

懇親会は会場から徒歩15分ほどの錦糸町駅周辺にあるダイニングバーを借り切り、本発表会の実行委員でもある日本大学の松本真和先生の司会進行のもとに行われました。日本海水学会会長の斉藤恭一先生(千葉大学)にも発表会に引き続きご参加いただき、ご挨拶を頂戴致しました。また長年に渡り若手会のために尽力いただいている東郷育朗様(サンアクティス)をはじめ、諸先生方からもお言葉を頂戴致しました。他にも企業研究会でご発表いただいた担当者の方々にご参加いただき、情報交換の場として大変有意義なものとなりました。

最終日となった3日目は午前中に口頭発表を行い、午後からは「塩の歴史と文化」と題した公開シンポジウムが開催されました。本シンポジウムの主催は日本海水学会若手会、たばこと塩の博物館および海水総合研究所の3団体であり、共催としてソルト・サイエンス研究財団に協力いただきました。座長は海水総合研究所の正岡功士様に担当いただき、4件の講演がありました。まず、たばこと塩の博物館の高梨浩樹様には「塩の歴史と文化 - たばこと塩の博物館「塩展示室」から」と題して、塩づくりの歴史に加え、博物館の展示内容などを紹介いただきました。次に、海水総合研究所の吉川直人様には、「塩の製造法と種類」と



写真3 新企画「企業研究会」の様子(ワークショップルーム)

題して、塩の製造法の解説のみならず、それらと品質との関係についても解説していただきました。続いて、秋田県立大学の石川匡子先生には、「塩の味とその不思議」と題して、塩味とその他の味との相互作用を中心に説明していただきました。そして最後に、海水総合研究所の中山由佳様に「塩の機能とその利用」と題して体内および調理・食品加工における円の働きを中心に解説していただきました。

公開シンポジウム終了後、閉会式と併せて学生研究発表の優秀発表賞と奨励賞の表彰式が行われました(写真4)。奨励賞とは今回初の企画で、参加企業の担当者がとくに優秀と認めた発表に対して表彰するものです。今回は、鳴門塩業(株)様とダイヤソルト(株)様の2社よりご提供いただきました。本研究発表会の実行委員(発表賞担当)である工藤翔慈先生(群馬工業高専)の華やかなバイオリン演奏のもと、同じく実行委員の和田善成先生より受賞者が発表されました。優秀発表賞の4名については日本海水学会理事の正岡功士様(海水総合研究所)より賞状と記念品が授与されました。優秀発表賞の受賞者は日本大学の加藤佐和子さん「ファインバブルを用いたシアノバクテリアの増殖促進法の開発」、山口大学の諸富弘樹さん「海水を原料とする酸化マグネシウムと第一鉄塩を用いたセレン(VI)汚染土壌の不溶化処理」、日本大学大学院の長嶋恭介さん「高速液体クロマトグラフィーを用いるタンパク質凝集体の分別測定に関する研究」および東京農工大学大学院の Gemgui OTGONNYAM さん「製

塩と海水淡水化との統合プロセスから資源を回収するための晶析操作法」の4名でした。また、奨励賞（鳴門塩業（株））は神戸大学大学院の濱田慎之介さん「電気透析排水から2価陽イオンと2価陰イオンを選択分離する新規ナノ濾過膜の開発」、奨励賞（ダイヤソルト（株））は横浜国立大学の今井俊之介さん「固液攪拌槽内における固体粒子濃度分布のラグランジアン解析」がそれぞれ受賞されました。6名の受賞者の皆さん、本当におめでとうございます。表彰式の最後、実行委員長である私から閉会の辞を述べさせていただきました。

この度の学生研究発表会が盛会のうちに終了したのは偏に、日本海水学会の皆様はもとより、多くの関係各位のご支援とご協力があったからに他なりません。たばこと塩の博物館の高梨浩樹様、および博物館スタッフの方々には事前準備から会場の運用まで多岐に渡りご尽力いただきました。また神奈川工科大学の市村重俊先生、大塚実業（株）の大塚雅之様、石原健様には企業研究会のために親身にご協力いただきました。発表会の運営にあたっては海水総合研究所の中村彰様、峯尾隼人様をはじめ実行委員の先生方並びに日本大学生産工学部の学生の皆さんに手厚いサポートを

いただきました。若手会会長の山中真也先生（室蘭工業大学）と副会長の鈴木祐麻先生（山口大学）からは運営にあたり全面的にご協力いただきました。公開シンポジウムの開催にあたっては共催という形で多大なるご支援をいただきました公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団、学生研究発表会に引き続いて会場等を提供していただいたたばこと塩の博物館、来場者の土産用に塩製品を提供していただいた海水総合研究所の関係各位に厚く御礼申し上げます。最後に、ご多用のところ全国各地よりご参加いただいた皆様に深謝いたします。

来年の3月には記念すべき第10回目の学生研究発表会が、長崎県佐世保市で開催する予定です。皆様のご参加をお待ち申し上げております。また、海水学会若手会では引き続き新会員を募集しております。入会金および年会費は無料です。とくに年齢制限はございません。ご興味のある方は学会ホームページより若手会のサイトにアクセスしていただき、本会の目的、活動内容等をご覧ください。ご賛同いただけたら是非、入会をお願い致します。

今後も海水学会若手会へのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



写真4 学生研究発表会での表彰式の様子